

研究要旨

【研究目的】小児期に発症する腎領域の指定難病と小児慢性特定疾患を主たる対象として日本小児腎臓病学会、日本腎臓学会、日本小児科学会等と連携し、1. 全国疫学調査に基づいた診療実態把握、2. エビデンスに基づいた診療ガイドライン等の確立と改定、3. 診断基準・重症度分類・診療ガイドライン等のとおりまとめと普及、を行い、対象疾患の診療水準の向上と対象疾病の疫学情報、治療情報や研究成果を非専門医、患者及び国民に広く普及・周知に資する活動を行うことを目的とする。

【方法】対象とする疾患は、先天性腎尿路異常、先天性ネフローゼ症候群、バーター／ギッテルマン症候群、エプスタイン症候群、アルポート症候群、鯉耳腎症候群、ギャロウェイ・モワト症候群、ネイルパテラ症候群、特発性ネフローゼ症候群、ネフロン癆、ロウ症候群である（ネフロン癆とロウ症候群は追加）である。これらの小児腎領域の希少・難治性疾患群に対して、治療実態、研究開発状況の情報収集、診療ガイドライン・手引書の作成・妥当性評価、患者・家族向け診療パンフレット等の作成と情報提供用ウェブサイトの構築、研究協力者、診療医への普及・啓発活動、全国診療体制の確立等を行った。

並行して平成 22 年度に厚生労働科学研究費補助金難治克服研究事業で確立し、その後継続してきた小児慢性腎臓病（小児 CKD）コホートの追跡予後調査を実施した。さらに疫学調査研究として、上記 11 疾患に対して、500 床以上の小児腎領域の難病症例を診療し得る 377 施設を対象に調査を行った。初年度は診療実態に関する情報収集を行った。さらに 2 年目以降は初年度回答のあった 296 施設に対し、指定難病 4 疾病（ギャロウェイ・モワト症候群、エプスタイン症候群、鯉耳腎症候群、ネイルパテラ症候群／LMX1B 関連腎症）と小児慢性特定疾患 3 疾病（ロウ症候群、ネフロン癆、バーター症候群・ギッテルマン症候群）に関する症例調査を行い、特に発見時年齢、発見動機と腎機能予後に関しての調査を行った。

【結果】

研究期間を通じ対象各疾患に関して、治療実態、研究開発状況の情報収集、診療ガイドライン・手引書の作成・妥当性評価、患者・家族向け診療パンフレット等の作成を行った。

並行して小児 CKD コホートの追跡予後調査に関して、2010 年時点でそれぞれ CKD ステージ 3a, 3b, 4 の患者の 9 年腎生存率は、CAKUT 群で 83.6%, 43.2%, 10.7%, 非 CAKUT 群で 63.7%, 46.5%, 4.3% であった（返送率 94.1%）。小児腎領域の難病の診療に関する調査では、全国の診療実態が明らかとなり、また約 90% の施設がそれらの情報の公開に同意している。症例調査を行った 7 疾患に関しては、特に各々の発見動機、発見年齢と発見時 GFR、腎外症状、遺伝子異常の有無などの詳細が明らかになった。

さらに研究班全体のウェブサイトを整備し、英文化もさらにすすめた。小児腎領域難病診療に関する普及啓発のセミナーを、那覇（2018 年 5 月）、福岡（2019 年 5 月）と札幌（2019 年 11 月）で開催した。小児の正確な腎機能評価に関して広く啓発を行っていく目的で、小児慢性腎臓病（小児 CKD）：小児の「腎機能障害の診断」と「腎機能評価」の手引きを改訂した。

【考察】

小児腎領域の難病の各疾患に関して、診療体制の整備を進めることができた。特発性ネフローゼ症候群は、エビデンスに基づく診療ガイドラインを作成した。一方同疾患やアルポート症候群を除き等研究の対象疾患は非常に希少でエビデンスの確立していない疾患が多く、エビデンスに基づいたガイドラインの作成は困難なものが多い。より実地医療に基づいた診療ガイドや患者向けのパンフレットの作成、Web の作成をすすめていく。さらに今後特に患者への直接の還元を目指し、患者への情報公開、発信を続けていく。2010 年から行われている小児 CKD コホート研究は、開始 9 年後の情報の解析を行い比較的進行が緩やかと考えられていた CAKUT も、一定期間後は非 CAKUT と同様に急速に末期腎不全に進行する事が明らかになってきた。小児腎領域の難病調査に関しては、協力施設の約 90% の病院から情報公開に関する承諾を得られたため、今後難病拠点病院との連携を視野に入れた診療体制や、小児腎臓病学会等との連携を構築していく事がのぞまれる。また各疾患の発見動機が明らかになったことで、予後との関連も検討の上さらに適切かつ早期発見をめざして、普及啓発をすすめる。

【結論】小児腎領域の全ての指定難病と主要な小児慢性特定疾患の診療実態が明らかになった。エビデンスレベルに応じて、ガイドラインあるいはガイド等を整備した。全疾患共通、かつ最大の合併症といえる腎機能障害すなわち小児 CKD に関して、コホート研究により長期の予後が明らかになった。また今後特に患者への直接の還元を目指し、患者への情報公開を続けていく。

研究分担者

上村 治	一宮医療療育センター・センター長
服部元史	東京女子医科大学・教授
中西浩一	琉球大学・教授
丸山彰一	名古屋大学・教授
濱崎祐子	東邦大学・准教授
伊藤秀一	横浜市立大学・教授
森貞直哉	神戸大学・客員准教授
野津寛大	神戸大学・特命教授
張田 豊	東京大学・准教授
濱田 陸	東京都立小児総合医療センター・医長
金子徹治	東京都立小児総合医療センター・ 生物統計家

- ・先天性ネフローゼ症候群
- ・バーター／ギッテルマン症候群
- ・特発性ネフローゼ症候群
- ・ネフロン癆
- ・ロウ症候群

これらの疾患に対して、治療実態、研究開発状況の情報収集、診療ガイドライン・手引書の作成・妥当性評価、患者・家族向け診療パンフレット等の作成と情報提供用ウェブサイトの構築、研究協力者、診療医への普及・啓発活動、全国診療体制の確立等を行った。

並行して平成22年度に厚生労働科学研究費補助金難治克服研究事業で確立し、その後継続してきた小児慢性腎臓病（小児CKD）コホートの追跡予後調査を実施するした。この研究は平成22年度の小児慢性腎臓病ステージ3-5の患者（生後3ヶ月から15歳まで）の全国疫学調査で確認された113施設447症例を対象としている。

さらに疫学調査研究として、上記11疾患に対して、500床以上の小児腎領域の難病症例を診療し得る377施設を対象に調査を行った。初年度は診療実態に関する情報収集を行った。さらに2年目以降は初年度回答のあった296施設に対し、指定難病4疾病（ギャロウェイ・モワト症候群、エプスタイン症候群、鰓耳腎症候群、ネイルパテラ症候群／LMX1B関連腎症）と小児特定慢性疾病3疾病（ロウ症候群、ネフロン癆、バーター症候群・ギッテルマン症候群）に関する症例調査を行い、特に発見時年齢、発見動機と腎機能予後に関する調査を行った。

これらの研究に並行し、地域での普及啓発のためのセミナーを開催した。また小児CKDの早期診断を目的とした、小児慢性腎臓病（小児CKD）：小児の「腎機能障害の診断」と「腎機能評価」の手引き』を作成した。

A. 研究目的

本研究が対象とする小児腎領域の希少・難治性疾患群は、その多くが小児から成人期にかけて、末期腎不全に進行する難病である。これまでの研究成果を統合し、診療水準の向上と学会を通じた患者への情報発信が強くもとめられている。具体的には、本研究は小児期に発症する腎領域の指定難病と小児慢性特定疾患を主たる対象として日本小児腎臓病学会、日本腎臓学会、日本小児科学会等と連携し、1. 全国疫学調査に基づいた診療実態把握、2. エビデンスに基づいた診療ガイドライン等の確立と改定、3. 診断基準・重症度分類・診療ガイドライン等のとりまとめと普及、を行い対象疾患の診療水準の向上と対象疾病の疫学情報、治療情報や研究成果を非専門医、患者及び国民に広く普及・周知に資する活動を行うことを目的とする。

B. 研究方法

対象疾患は、以下に示す小児腎領域の指定難病と症に慢性特定疾病である。

【指定難病】

- ・エプスタイン症候群
- ・アルポート症候群
- ・鰓耳腎症候群
- ・ギャロウェイ・モワト症候群
- ・ネイルパテラ症候群、

【小児慢性特定疾病】

- ・先天性腎尿路異常

（倫理面への配慮）

研究にあたりヘルシンキ宣言に基づく倫理的原則および医学研究に関する倫理指針を遵守し、個人情報管理を徹底する。また毎年中央施設の倫理委員会に提出し、倫理審査を申請し、承認の後研究を行った（最終年度に関しては、北里大学医学部・病院倫理委員会 B19-087, B19-088）。

C. 研究結果

【小児CKDコホート追跡予後調査の結果】

小児CKD患者のコホートの追跡予後調査の、本年度の回答率は94.1%であった。これらのデータに基づき、観察開始から10年間の長期予後を明らかにすることができた。

2010年時点でそれぞれCKDステージ3a, 3b, 4の患者の9年腎生存率は、CAKUT群で83.6%, 43.2%, 10.7%, 非CAKUT群で63.7%, 46.5%, 4.3%であった(図1, 2)。であった。

図1 9年腎生存率 (CAKUT)

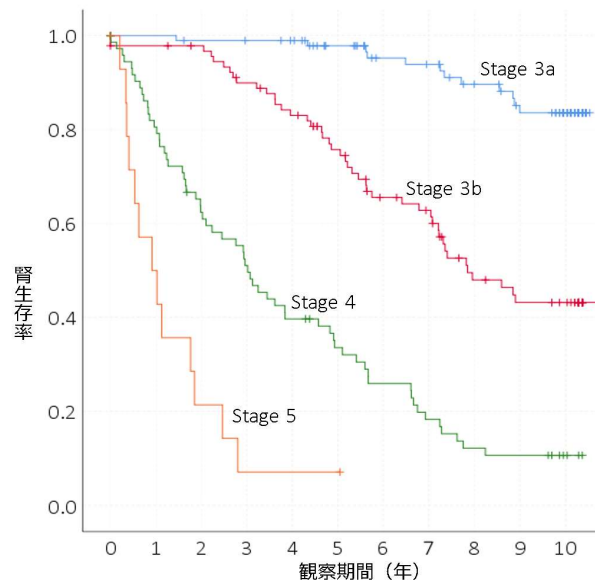
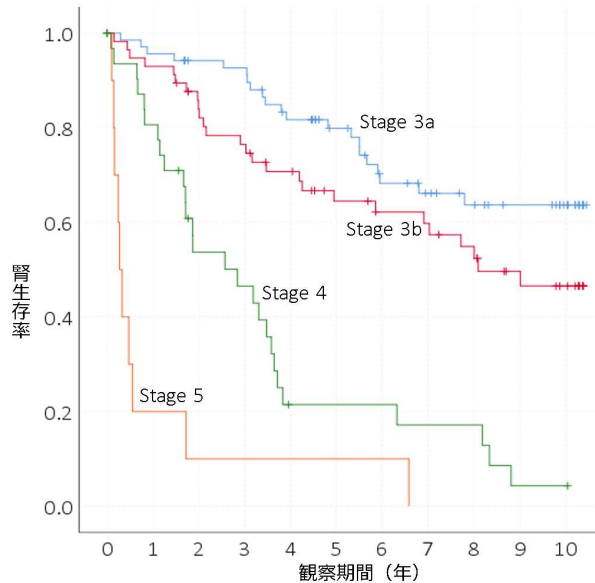


図2 9年腎生存率 (CAKUT以外の疾患)



【小児腎領域の難病の全国調査】

小児腎領域の難病の診療に関する施設調査で難

病診療状況の情報公開に関する同意を90.8%の施設から得られた。そして症例調査を行った7疾患に関しては、各々の発見動機、発見年齢と発見時GFR, 腎外症状, 遺伝子異常の有無などの情報を収集出来た。(図3)

図3 各疾患の発見時年齢と発見動機

疾患名	発見時年齢中央値	発見動機	n	%
ギャロウエイ・モフト産機群 (10例)	3.1歳	発見契機		
乳幼児健診	0	0	0	0
3歳児検尿	0	0	0	0
学校検尿	2	20	2	20
けいれん・てんかん	4	40	4	40
ネフローゼ症候群	1	10	1	10
その他	3	30	3	30
総計			10	
ロウ産機群 (81例)	0.3歳	発見契機		
乳幼児健診	11	18	11	18
3歳児検尿	0	0	0	0
学校検尿	2	3	2	3
発達障害	6	10	6	10
尿量低下	5	8	5	8
白内障	20	33	20	33
聴覚	3	5	3	5
緑内障	1	2	1	2
その他	13	21	13	21
総計			81	
ネフロン産機群 (90例)	7.0歳	発見契機		
乳幼児健診	5	6	5	6
3歳児検尿	2	2	2	2
学校検尿	17	19	17	19
多飲多尿	9	10	9	10
貧血	7	8	7	8
成長障害	6	7	6	7
腎外合併症	11	12	11	12
偶発的腎機能障害指摘	16	18	16	18
家族歴	3	3	3	3
その他	14	16	14	16
総計			90	
バーター産機群・ギツメルマン産機群 (78例)	4.5歳	発見契機		
乳幼児健診	2	3	2	3
3歳児検尿	2	3	2	3
学校検尿	0	0	0	0
検査で低Kの指摘	19	24	19	24
テタニー・しびれ	12	15	12	15
家族歴	8	10	8	10
体重増加不良・低身長	10	13	10	13
その他	25	32	25	32
総計			78	
エプスタイン産機群 (17例)	6.0歳	発見契機		
乳幼児健診	0	0	0	0
3歳児検尿	2	12	2	12
学校検尿	6	35	6	35
尿血・出血傾向	4	24	4	24
聴覚	1	6	1	6
その他	4	24	4	24
総計			17	
ネイルパテラ産機群 (24例)	3.0歳	発見契機		
乳幼児健診	2	8	2	8
3歳児検尿	3	13	3	13
学校検尿	2	8	2	8
検査以外の検査異常	2	8	2	8
爪変形	7	29	7	29
家族歴	6	25	6	25
膝変形	1	4	1	4
その他	1	4	1	4
総計			24	
顕耳腎産機群 (45例)	0.2歳	発見契機		
乳幼児健診	3	7	3	7
3歳児検尿	1	2	1	2
学校検尿	4	9	4	9
耳瘻孔・側頭瘻	3	7	3	7
聴覚	2	4	2	4
その他耳鼻科所見	3	7	3	7
体重増加不良・低身長	5	11	5	11
超音波検査	4	9	4	9
羊水過少	2	4	2	4
その他	18	40	18	40
総計			45	

【その他】

エビデンスレベルに応じて診療ガイドラインや患者向けパフレットの整備等をすすめた。研究班のウェブサイトを作成し、ひろく患者および医療関係者向けの情報の発信を開始した。とくに一部の疾患に対しては、英文サイトも作成した。

2018年から、小児腎領域の希少・難治性疾患群診療に関する普及啓発を行う目的で、地域でのセミナーを開始した。すでに那覇市、福岡市、札幌市で開催している。

【各疾患の進捗の要約】

1. ギャロウェイ・モワト症候群

ギャロウェイ・モワト症候群の国内外の症例報告から発現頻度の高い症状を抽出し、また全国診療実態調査を行った。70 数例の症例報告があり、小頭症と高度蛋白尿、耳介などの顔貌の形態異常が高率に見られることが判明した。

疫学調査は377 施設に送付し、296 施設 (78.5%) から調査票を回収した。ギャロウェイ・モワト症候群の診療経験のある施設は15 施設 (5.1%) のみで、65 施設 (22.0%) においてはギャロウェイ・モワト症候群の疾患の存在が認識されていなかった。診断に必須と回答された症状は精神運動発達遅滞68.8%、難治性てんかん51.0%、小頭症 45.8%、ネフローゼレベルでない蛋白尿 41.0%、ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群39.6%、顔面奇形16.7%であった。

以上の調査から小頭症と高度蛋白尿、耳介などの顔貌の形態異常が高率に見られることが判明した。特に小頭症が特徴的であり、小頭症があれば精神運動発達遅滞や難治性てんかんが併存する可能性が高いことから、ギャロウェイ・モワト症候群の診断基準を、1.小頭症、2.治療抵抗性か治療抵抗性と考えられる高度蛋白尿 (尿蛋白/クレアチニン比 ≥ 1.0 g/gCr、または一日尿蛋白量 ≥ 1 g)、3.耳介など顔貌の形態異常の3 症状を必須とすることとした。これにより診断の曖昧さがなくなり、臨床像や予後をより明確にし、本疾患の原因・病態について解明を進められる可能性がある。

現在疾患そのものの認知度が低く、疾患概念の普及・啓発が必要である。

2. エプスタイン症候群/3. ロウ症候群

エプスタイン症候群、ロウ症候群ともに、すでに実施された全国調査で得られた患者情報と新規症例を合わせたコホートを用いて、遺伝子解析を施行するとともに臨床像の詳細を検討した。

エプスタイン症候群においては、MYH9 遺伝子の頭部変異において腎予後が不良であった。レニン-アンジオテンシン系 (RAS) 阻害薬による明らかな腎機能障害進行の抑制効果はみられなかった。透析導入および腎移植において重大な合併症はみられなかった。ロウ症候群においては、年齢と推定糸球濾過量 (eGFR) は負の相関を示し ($r^2=0.68$, $p<0.0001$)、30-40 代で末期腎不全に至る例が多いことが示唆された。

エプスタイン症候群における RAS 阻害薬による

治療は、開始時期や用量の検討を含め、より多数例での詳細な解析が望まれる。腎代替療法については、透析、腎移植ともに末期腎不全に対する有用な治療手段と考えられた。

ロウ症候群では、69 例中 48 例に遺伝子解析が施行され、うち 45 例 (94%) に OCRL 遺伝子変異を認めた。遺伝子変異と臨床像に明らかな相関はなかった。年齢と推定糸球濾過量 (eGFR) は負の相関を示し ($r^2=0.64$, $p<0.0001$)、30-40 代で末期腎不全に至る例が多いことが示唆された。

4. アルポート症候群

「アルポート症候群診療ガイドライン2017」をMindsで公開した (平成30年7月10日)。各種学会において本診療ガイドラインに基づき、講演等を実施し、本疾患につき啓発した。

さらに患者さん向け資料として、「患者さん・ご家族のためのアルポート症候群Q&A」を作成し、Webに公開した。

5. 先天性ネフローゼ症候群 (フィンランド型) /6. ネフロン癆

先行研究および本邦の全国調査から得られた結果をもとに、「CNFの診断・管理の手引き」のドラフトを作成した。

研究期間中本疾患について、世界的に最も経験豊富なヘルシンキ小児病院を見学し、情報・意見交換を行った。

CNFの診断基準として世界的に使用されているものは妥当であるが、本邦ではNPHS1遺伝子異常が検出されない例も含んでおり、臨床的CNFも同様に扱う必要がある。腎移植までの治療計画については、報告されている症例数が最も多いフィンランドのプラクティスも取り入れて本邦の指針を示すことが重要である。

ネフロン癆については、文献検索の上、現時点で判明している遺伝子変異の情報を整理し、遺伝子異常も基準に含めた診断基準の整備を行った。また最終年度症例調査を行い、現在調査票を回収中である。

7. 鰓耳腎症候群

鰓耳腎症候群の診療手引書の作成や患者向けホームページを作成した。同症候群の診療に当たっている施設に対して行った調査の集計結果をもとに作成した、スクリーニング検査や治療、遺伝子検

査に関するクリニカルクエスチョンを土台に作成されている。

8. バーター症候群／ギッテルマン症候群

未だ確立していないBartter症候群/Gitelman症候群の遺伝子診断体制の整備をめざし、40名の日本人の遺伝子診断を行った。Gitelman症候群の臨床的特徴を解析し、論文発表を行った (Kidney Int Rep. 2018 Sep 28;4(1):119-125.)。Gitelman症候群における診断契機、臨床的特徴、腎外合併症発症頻度を明らかにした。責任遺伝子をパネル化し、Target sequenceを用いた網羅的診断体制を確立した。

患者用パンフレットを作成し、研究班ホームページに掲載した。さらに最新の知見をまとめ、英文誌への総説投稿を行った。

9. ネイルパテラ症候群

本患者病理標本または画像データから病理像を検討した。

LMX1B遺伝子の変異解析を行ない、同定された変異と主治医より提供された臨床情報を検討した。また同じ変異を有する家系内症例の症状について検討した。その結果、重篤な腎症を呈したネイルパテラ症候群患者で認められた変異はLMX1BとDNAとの結合に重要なホメオドメインの特定のHelix構造に存在していた。同じ変異を持つ家系例を解析したところ何らかの尿所見以上を呈するが必ずしも腎機能が悪化しない症例も多く存在した。また腎機能低下症例では全例で高度蛋白尿を呈していた。

以上のことから、変異の種類以外にも腎予後を規定する因子が存在することが示唆される。また高度蛋白尿を呈する場合には腎機能低下に注意が必要である。

10. 先天性腎尿路異常

既存の「低形成・異形成腎を中心としたCAKUTの腎機能障害進行抑制のためのガイドライン」に準拠した内容でホームページならびにパンフレットを作成し、英文化も行った。

収集した文献を統合し、日本人小児のエコー測定による腎臓の大きさの基準値を策定のための研究を開始した。男児888例、女児1095例、総人数1983例のデータを収集し、解析した。

11. 小児特発性ネフローゼ症候群

改訂診療ガイドラインの初稿を、関連学会（日本

腎臓学会、日本小児腎臓病学会）および患者会に査読いただき、完成版を作成した。また同ガイドラインの英訳化に着手した。さらに日本小児腎臓病学会のシンポジウムならびに本難病班として福岡で開催した一般小児科医向けのセミナーで、小児特発性ネフローゼ症候群の現状および診療ガイドラインの改訂に関して情報共有を行った。患者および医療者向けのホームページも完成させた。

本研究班として沖縄で開催した一般小児科医向けのセミナーで、小児特発性ネフローゼ症候群の現状および診療ガイドラインの改訂に関して情報共有を行った。患者を対象としたホームページ掲載内容の素案を作成した。

あわせて日本腎臓学会の腎臓病総合レジストリデータ解析した。2007年1月1日から2017年12月31日までに腎生検を施行された38,215例のうち、移植腎を除いた初回腎生検症例、かつ20歳未満で病因分類が確認できた2,596例を解析したところ、一次性ネフローゼ症候群503例の内訳は、微小変化型ネフローゼ症候群422例(83.9%)、巣状分節性糸球体硬化症56例(11.1%)、膜性腎症12例(2.4%)、IgA腎症10例(2.0%)、膜性増殖性糸球体腎炎3例(0.6%)であった。

D. 考察

2010年から行われている小児CKDコホート研究は、開始9年後の情報の解析を行った。また並行して腎性貧血の調査を行っており、赤血球造血刺激因子製剤 (ESA製剤) の副作用に関してその実態を明らかにした。今後も小児CKDの成人への移行期を超えた小児CKDの自然史の解明をめざし追跡調査を続けていく。

小児腎領域の難病調査の結果、調査協力施設の約90%の病院からこれまでの調査結果に関する情報公開に関する承諾を得られたため、今後難病拠点病院との連携を視野に入れた診療体制や、小児腎臓病学会等との連携を構築していくことがのぞまれる。また各疾患の発見動機が明らかになったことで、予後との関連も検討の上さらに適切かつ早期発見をめざして、普及啓発すめる。

一方特発性ネフローゼ症候群やアルポート症候群を除き非常に希少でエビデンスの確立していない疾患が多く、エビデンスに基づいたガイドラインの作成は困難な中で、より実地医療に基づいた診療ガイドや患者向けのパンフレットの作成、Webの作成をすすめていくことが必要である。さらに今後特

に患者への直接の還元を目指し、患者への情報公開、発信を続けていく。

E. 結論

全疾患共通、かつ最大の合併症といえる腎機能障害すなわち小児CKDに関して、コホート研究により長期の予後が明らかになった。また小児腎領域の全ての指定難病と主要な小児慢特定疾病の診療実態が明らかになった。また今後特に患者への直接の還元を目指し、患者への情報公開を続けていく。

F. 研究発表

1. 論文発表

1. Saida K, Kamei K, Hamada R, Yoshikawa T, Kano Y, Nagata H, Sato M, Ogura M, Harada R, Hataya H, Miyazaki O, Notsuka S, Ito S, Ishikura K. A simple refined approach for renovascular hypertension in children: a ten-year experience. *Pediatr Int*. 2020 Mar 10. [Online ahead of print]
2. Okuda Y, Soohoo M, Ishikura K, Tang Y, Obi Y, Laster M, Rhee CM, Streja E, Kalantar-Zadeh K. Primary causes of kidney disease and mortality in dialysis-dependent children. *Pediatr Nephrol*. 2020 Feb 4. [Epub ahead of print]
3. Gotoh Y, Shishido S, Hamasaki Y, Watarai Y, Hattori M, Miura K, Ishizuka K, Fujita N, Saito K, Nakagawa Y, Hotta K, Hataya H, Hamada R, Sato H, Kitayama H, Ishikura K, Honda M, Uemura O. Kidney function of Japanese children undergoing kidney transplant with preemptive therapy for cytomegalovirus infection. *Transpl Infect Dis*. 2020 Feb 28 [Epub ahead of print]
4. Aoki Y, Hamasaki Y, Satoh H, Matsui Z, Muramatsu M, Hamada R, Harada R, Ishikura K, Hataya H, Honda M, Sakai K, Shishido S: Long-term outcomes of pediatric kidney transplantation: A single-center experience over the past 34 years in Japan. *International Int J Urol*, 27(2):172-178. 2020 (2020.2)
5. Chan EY, Webb H, Yu E, Ghiggeri GM, Kemper MJ, Ma AL, Yamamura T, Sinha A, Bagga A, Hogan J, Dossier C, Vivarelli M, Liu ID, Kamei K, Ishikura K, Saini P, Tullus K. Both the rituximab dose and maintenance immunosuppression in steroid-dependent/frequently-relapsing nephrotic syndrome have important effects on outcomes. *Kidney Int*. 2020 Feb;97(2):393-401
6. Kamei K, Ishikura K, Sako M, Ito S, Nozu K, Iijima K. Rituximab therapy for refractory steroid-resistant nephrotic syndrome in children. *Pediatr Nephrol*. 2020 Jan; 35(1):17-24.
7. Nozu K, Yamamura T, Horinouchi T, Nagano C, Sakakibara N, Ishikura K, Hamada R, Morisada N, Iijima K. Inherited salt-losing tubulopathy: an old condition but a new category of tubulopathy. *Pediatr Int*. 2019 Dec 12. [Epub ahead of print]
8. Kubota M, Osuga Y, Kato K, Ishikura K, Kaneko K, Akazawa K, Yonekura T, Tazuke Y, Ieiri S, Fujino A, Ueno S, Hayashi Y, Yoshino K, Yanai T, Iwai J, Yamaguchi T, Amae S, Yamazaki Y, Sugita Y, Kohno M, Kanamori Y, Bitoh Y, Shinkai M, Ohno Y, Kinoshita Y. Treatment guidelines for persistent cloaca, cloacal exstrophy, and Mayer-Rokitansky-Küster-Häuser syndrome for the appropriate transitional care of patients. *Surg Today*, 49(12): 985-1002, 2019. (2019.12)
9. Sato M, Ishikura K, Ando T, Kikunaga K, Terano C, Hamada R, Ishimori S, Hama-saki Y, Araki Y, Gotoh Y, Nakanishi K, Nakazato H, Matsuyama T, Iijima K, Yoshikawa N, Ito S, Honda M. Prognosis and acute complications at the first onset of idiopathic nephrotic syndrome in children: a nationwide survey in Japan (JP-SHINE study). *Nephrol Dial Transplant*. 2019 Sep 24. [Online ahead of print.]
10. Nagano C, Morisada N, Nozu K, Kamei K, Tanaka R, Kanda S, Shiona S, Araki Y, Ohara S, Matsumura C, Kasahara K, Mori Y, Seo A, Miura K, Washiyama M, Sugimoto K, Harada R, Tazoe S, Kourakata H, Enseki M, Aotani D, Yamada T, Sakakibara N, Yamamura T, Minamikawa S, Ishikura K, Hattori M, Ito S, Iijima K: Clinical characteristics of HNF1B-related disorders in a Japanese population. *Clin Exp Nephrol*, 23(9):1119-1129. 2019.
11. Nishi K, Inoguchi T, Kamei K, Hamada R, Hataya H, Ogura M, Sato M, Yoshioka T, Ogata K, Ito S, Nakanishi K, Nozu K, Hamasaki Y, Ishikura K: Detailed clinical manifestations at onset and prognosis of neonatal-onset Denys-Drash syndrome and congenital nephrotic syndrome of the Finnish type. *Clin Exp Nephrol*, 23(8):1058-1065, 2019
12. Ishiwa S, Sato M, Morisada N, Nishi K, Kanamori T, Okutsu M, Ogura M, Sako M, Kosuga M, Kamei K, Ito S, Nozu K, Iijima K, Ishikura K. Association between the clinical presentation of congenital anomalies of the kidney and urinary tract (CAKUT) and gene mutations: an analysis of 66 patients at a single institution. *Pediatr Nephrol*, 34(8): 1457-1464, 2019. (2019.8)
13. Sato M, Kaneko T, Ogura M, Kamei K, Ito S, Fukuda A, Sakamoto S, Kasahara

- M, Ishikura K: Favorable kidney function in pediatric liver transplant recipients: results of a single-center cohort study. *Transplantation*, 103(8): 1655-1662, 2019. (2019.8)
14. Nagano C, Sako M, Kamei K, Ishikura K, Nakamura H, Nakanishi K, Omori T, Nozu K, Iijima K. Study protocol: multicenter double-blind, randomized, placebo-controlled trial of rituximab for the treatment of childhood-onset early-stage uncomplicated frequently relapsing or steroid-dependent nephrotic syndrome (JSKDC10 trial). *BMJ Nephrol*. 2019 Aug 2;20(1):293.
 15. Kiuchi Z, Ogura M, Sato M, Kamei K, Ishikura K, Abe J, Ito S: No preventive or therapeutic efficacy of infliximab against macrophage activation syndrome due to systemic juvenile idiopathic arthritis. *Scand J Rheumatol*, 48(3). (2019.4)
 16. Shima Y, K Nakanishi, Sako M, Saito-Oba M, Hamasaki Y, Hataya H, Honda M, Kamei K, Ishikura K, Ito S, Kaito H, Tanaka R, Nozu K, Nakamura H, Ohashi Y, Iijima K, Yoshikawa N: & for the Japanese Study Group of Kidney Disease in Children (JSKDC). Lisinopril versus losartan for mild childhood IgA nephropathy: a randomized controlled trial (JSKDC01 study). *Pediatr Nephrol* 2019 ;34(5): 837-846
 17. Unzaki A, Morisada NNagatani K, Nozu K, Ye MJ, Ito S, Matsunaga T, Ishikura K, Ina S, Nagatani K, Okamoto T, Inaba Y, Ito N, Igarashi T, Kanda S, Ito K, Omune K, Iwaki T, Ueno K, Yahata M, Gotto S, Okamoto N, Iijima K: Clinically diverse phenotypes and genotypes of patients with branchio-oto-renal syndrome. *J Hum Genet*, 63: 647-656, 2018.
 18. Shima Y, Nakanishi K, Kaku Y, Ishikura K, Hataya H, Matsuyama T, Honda M, Sako M, Nozu K, Tanaka R, Iijima K, Yoshikawa N: Combination therapy with or without warfarin and dipyridamole for severe childhood IgA nephropathy; an RCT. *Pediatr Nephrol*. 2018; 33(11): 2103-2112
 19. Harada R, Ishikura K, Shinozuka S, Mikami N, Hamada R, Hataya H, Morikawa Y, Omori T, Takahashi H, Hamasaki Y, Kaneko T, Iijima K, Honda M: Ensuring safe drug administration to pediatric patients with renal dysfunction: a multicenter study. *Clin Exp Nephrol*, 22: 938-946, 2018.
 20. Kamei K, Ogura M, Sato M, Ito S, Ishikura K: Infusion reactions associated with rituximab treatment for childhood-onset complicated nephrotic syndrome. *Pediatr Nephrol*, 33: 1013-1018, 2018.
 21. Hamasaki Y, Muramatsu M, Hamada R, Ishikura K, Hataya H, Satou H, Honda M, Nakanishi K, Shishido S: Long-term outcome of congenital nephrotic syndrome after kidney transplantation in Japan. *Clin Exp Nephrol*, 22: 719-726, 2018.
 22. Morikawa Y, Miura M, Furuhata MY, Morino S, Omori T, Otsuka M, Chiga M, Obonai T, Hataya H, Kaneko T, Ishikura K, Honda M, Hasegawa Y: Nebulized hypertonic saline in infants hospitalized with moderately severe bronchiolitis due to RSV infection: A multicenter randomized controlled trial. *Pediatr Pulmonol*, 53: 358-365, 2018.
 23. Terano C, Ishikura K, Hamada R, Yoshida Y, Kubota W, Okuda Y, Shinozuka S, Harada R, Iyoda S, Fujimura Y, Hamasaki Y, Hataya H, Honda M: Practical issues in using eculizumab for children with atypical haemolytic uremic syndrome in the acute phase: a review of 4 patients. *Nephrology (Carlton)*, 23: 539-545, 2018.
 24. Kamei K, Miyairi I, Ishikura K, Ogura M, Shoji K, Funaki T, Ito R, Arai K, Abe J, Kawai T, Onodera M, Ito S: Prospective Study of Live Attenuated Vaccines for Patients with Nephrotic Syndrome Receiving Immunosuppressive Agents. *J Pediatr*, 196: 217-222, 2018.
 25. Sato M, Kamei K, Ogura M, Ishikura K, Ito S: Relapse of nephrotic syndrome during post-rituximab peripheral blood B-lymphocyte depletion. *Clin Exp Nephrol*, 22: 110-116, 2018.
 26. Ploos van Amstel S, Noordzij M, Warady BA, Cano F, Craig JC, Groothoff JW, Ishikura K, Neu A, Safouh H, Xu H, Jager KJ, Schaefer F: Renal replacement therapy for children throughout the world: the need for a global registry. *Pediatr Nephrol*, 33: 863-871, 2018.
 27. Jia X, Horinouchi T, Hitomi Y, Shono A, Khor SS, Omae Y, Kojima K, Kawai Y, Nagasaki M, Kaku Y, Okamoto T, Ohwada Y, Ohta K, Okuda Y, Fujimaru R, Hatada K, Kumagai N, Sawanobori E, Nakazato H, Ohtsuka Y, Nakanishi K, Shima Y, Tanaka R, Ashida A, Kamei K, Ishikura K, Nozu K, Tokunaga K, Iijima K: Strong Association of HLA-DR/DQ Locus with Childhood Steroid-Sensitive Nephrotic Syndrome in the Japanese Population. *J Am Soc Nephrol*, 29: 2189-2199, 2018.
 28. Gotoh Y, Uemura O, Ishikura K, Sakai T, Hamasaki Y, Araki Y, Hamada R, Honda M: Validation of estimated glomerular filtration rate equations for Japanese children. *Clin Exp Nephrol*, 22: 931-937, 2018.
 29. Nagata H, Sato M, Ogura M, Yoshikawa T, Yamamoto K, Matsumura S, Kano Y, Saida K, Sako M, Kamei K, Yoshioka T, Ogata K, Ito S, Ishikura K: Coagulopathy as a complication of kidney biopsies in paediatric systemic lupus erythematosus patients with antiphospholipid syndrome. *Ne*

- phrology (Carlton), 23: 592-596, 2018.
30. Uemura O, Ishikura K, Gotoh Y, Honda M: Creatinine-based estimated glomerular filtration rate for children younger than 2 years. *Clin Exp Nephrol*, 22: 483-484, 2018.
 31. Nishimura N, Kasahara M, Ishikura K, Nakagawa S. Current status of pediatric transplantation in Japan. *J Intensive Care*. 5:48, 2017
 32. Kamei K, Ishikura K, Sako M, Aya K, Tanaka R, Nozu K, Kaito H, Nakanishi K, Ohtomo Y, Miura K, Takahashi S, Morimoto T, Kubota W, Ito S, Nakamura H, Iijima K. Rituximab for Childhood-Onset Refractory Nephrotic Syndrome (RCRNS) Study Group. Long-term outcome of childhood-onset complicated nephrotic syndrome after a multicenter, double-blind, randomized, placebo-controlled trial of rituximab. *Pediatr Nephrol*, 32(11):2071-2078, 2017
 33. Kikunaga K, Ishikura K, Terano C, Sato M, Komaki F, Hamasaki Y, Sasaki S, Iijima K, Yoshikawa N, Nakanishi K, Nakazato H, Matsuyama T, Ando T, Ito S, Honda M. Japanese Pediatric Survey Holding Information of NEphrotic syndrome (JP-SHINE) study of the Japanese Study Group of Renal Disease in Children. High incidence of idiopathic nephrotic syndrome in East Asian children: a nationwide survey in Japan (JP-SHINE study). *Clin Exp Nephrol*, 21(4):651-657, 2017
 34. Yoshikawa T, Kamei K, Nagata H, Saida K, Sato M, Ogura M, Ito S, Miyazaki O, Urushihara M, Kondo S, Sugawara N, Ishizuka K, Hamasaki Y, Shishido S, Morisada N, Iijima K, Nagata M, Yoshioka T, Ogata K, Ishikura K. Diversity of renal phenotypes in patients with WDR19 mutations: Two case reports. *Nephrology (Carlton)*, 22(7):566-571, 2017
 35. Uemura O, Yokoyama H, Ishikura K, Gotoh Y, Sato H, Sugiyama H, Honda M, Matsuo S. Performance in adolescents of the two Japanese serum creatinine based estimated glomerular filtration rate equations, for adults and paediatric patients: A study of the Japan Renal Biopsy Registry and Japan Kidney Disease Registry from 2007 to 2013. *Nephrology (Carlton)*, 22(6):494-497, 2017
 36. Hamasaki Y, Komaki F, Ishikura K, Hamada R, Sakai T, Hataya H, Ogata K, Ando T, Honda M. Nephrotoxicity in children with frequently relapsing nephrotic syndrome receiving long-term cyclosporine treatment. *Pediatr Nephrol*, 32(8):1383-1390, 2017
 37. Kanazawa H, Fukuda A, Sato M, Ishimori S, Sasaki K, Uchida H, Shigeta T, Mali VP, Sakamoto S, Ishikura K, Kasahara M. Successful resumption of peritoneal dialysis following living donor liver transplantation in children with end-stage renal disease. *Pediatric Transplantation*, 21(3), 2017
 38. Nishimura N, Kasahara M, Ishikura K, Nakagawa S. Current status of pediatric transplantation in Japan, 2017; 5: 48
 39. 西田幹子, 佐舞, 小椋雅夫, 亀宏一, 石倉健司. スペシャリストに聞く!小児透析看護・指導のコツ 母子の愛着形成に着目した乳児期にあるPD患者の看護. *日本小児PD・HD研究会雑誌*. 2019; 31: 17-21(2019).
 40. 金透, 亀井宏一, 西健太朗, 奥津美夏, 石和翔, 佐藤舞, 小椋雅夫, 伊藤秀一, 中西啓太, 野津寛大, 飯一誠, 石倉健司. 無症候性蛋白尿の精査でWT1遺伝子異常が判明した17歳女児例. *日本小児腎不全学会雑誌(1341-5875)*. 2019; 39: 207-210(2019.07)
 41. 亀井宏一, 佐藤舞, 金森透, 奥津美夏, 石和翔, 西健太朗, 小椋雅夫, 澤井俊宏, 奥田雄介, 義岡孝子, 緒方謙太郎, 石倉健司. 半月体形成性腎炎を呈したC3腎炎の4歳女児. *日本小児腎不全学会雑誌*. 2019; 39: 119-122(2019.07)
 42. 塚口裕康, 石倉健司. 指定難病ペディア 2019【個別の指定難病 腎・泌尿器系 ギャロウェイ・モフト症候群【指定難病219】】. *日本医師会雑誌*. 2019; 148(1): S251(2019.06)
 43. 三浦健一郎, 佐古まゆみ, 芦田明, 石倉健司, 井上勉, 後藤芳充, 小松康宏, 重松隆, 杉山 齊, 寺野千香子, 中西浩一, 西尾妙織, 幡谷浩史, 藤元昭一, 向山政志, 吉矢邦彦, 本田雅敬, 岩野 正之, 服部元史. IgA腎症と微小変化型ネフローゼ症候群の診療ガイドラインの認知度と活用状況に関するアンケート調査の報告. *日本腎臓学会誌*. 2019; 61(2): 51-57(2019.03)
 44. 西健太朗, 堀川玲子, 石倉健司. 【内分泌症候群(第3版)・その他の内分泌疾患を含めて】性機能低下を伴う遺伝性(先天性)症候群 Denys-Drash症候群. *日本臨床(0047-1852)別冊内分泌症候群IV*. 2019; :480-483(2019.03)
 45. 金森透. 長谷川雄一, 石倉健司. 【小児 一次救急マニュアル-帰宅可能か?二次救急か?判断のための手引き-】一次救急でみられる主な疾患 腎・泌尿器領域. *小児科*. 2019; 60(5): 742-747(2019.04)
 46. 金森透, 石倉健司. 【小児の負荷試験2019】腎機能検査 日本人小児のeGFRの算出法 クレアチニン, シスタチンC, β 2ミクログロブリン. *小児内科*. 2019; 51(4): 539-541(2019.04)
 47. 亀井 宏一, 小椋 雅夫, 松村 壮史, 加納 優治, 好川 貴久, 永田 裕子, 才田 謙, 佐藤 舞, 山本 かずな, 佐古 まゆみ, 伊藤 秀一, 石倉 健司: 移植腎のプロトコール生検の意義. *腎移植・血管外科*, 29(1): 1-6, 2018.
 48. 佐古 まゆみ, 三浦 健一郎, 芦田 明, 石倉 健司, 井上 勉, 後藤 芳充, 小松 康宏, 重松 隆, 杉山 齊, 寺野 千香子, 中西 浩一, 西尾 妙織, 幡谷 浩史, 藤元 昭一, 向山 政志, 吉矢 邦彦, 本田 雅敬, 岩野 正之, 服部 元史:「小児慢性腎臓病患者における移行医療についての提言」と「思春期・青年期の患者のためのCKD診療ガイド」の認知度, 理解度, 活用度に関する

- アンケート調査の報告. 日本腎臓学会誌, 60 (7): 972-977, 2018.
49. 山本 かずな, 寺野 千香子, 濱田 陸, 橋本 淳也, 武田 良淳, 原田 涼子, 石倉 健司, 長谷川 行洋, 幡谷 浩史, 本田 雅敬: 腎機能障害を契機に診断された甲状腺機能低下症の1例. 日本小児腎臓病学会雑誌, 31(2): 167-171, 2018.
 50. 西田 幹子, 緒方 志穂, 中山 美穂子, 石和 翔, 小椋 雅夫, 亀井 宏一, 石倉 健司: 腹膜透析から血液透析へ移行した多動傾向にある患者の看護. 日本小児PD・HD研究会雑誌, 30: 66-68, 2018.
 51. 岡田浩一, 服部 元史, 石倉健司, CKD診療ガイド・ガイドライン改訂委員会, et al, 日本腎臓学会: エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2018. 日本腎臓学会誌, 60(8): 1037-1193, 2018.
 52. 亀井 宏一, 宮入 烈, 庄司 健介, 河合 利尚, 新井 勝大, 伊藤 玲子, 小椋 雅夫, 佐古 まゆみ, 中村 秀文, 伊藤 秀一, 石倉 健司: 【ネフローゼ症候群-MCNS/FSGSの最新知見】合併症対策とエビデンス 免疫抑制薬内服中の患者への弱毒性ワクチン接種. 腎と透析, 85(6): 864-868, 2018.
 53. 佐藤 舞, 石倉 健司: 海外と日本の比較 小児腎と透析, 85(6): 795-800, 2018.
 54. 小椋 雅夫, 石倉 健司: 小児末期腎不全における栄養療法. 臨床透析, 34(9): 1097-1102, 2018.
 55. 石和 翔, 石倉 健司: 小児慢性腎臓病(小児CKD)の最新の知見. 小児科, 59(9): 1315-1323, 2018.
 56. 佐藤 舞, 石倉 健司: 腎臓領域. 小児内科, 50 (5): 824-827, 2018.
 57. 亀井 宏一, 宮入 烈, 庄司 健介, 河合 利尚, 新井 勝大, 伊藤 玲子, 小椋 雅夫, 佐古 まゆみ, 中村 秀文, 伊藤 秀一, 石倉 健司: 免疫抑制薬内服中の患者への弱毒生ワクチン接種の現状と今後の戦略・課題. 日本臨床腎移植学会雑誌, 6(2): 163-172, 2018.
 58. 亀井 宏一, 稲垣 秀人, 森 崇寧, 藤丸 拓也, 蘇原 映誠, 濱崎 祐子, 宍戸 清一郎, 義岡 孝子, 緒方 謙太郎, 岡田 麻理, 小椋 雅夫, 佐藤 舞, 倉橋 浩樹, 石倉 健司: PKD1の複合ヘテロ接合体変異を示すARPKDと類似した臨床像を呈した男児例. 日本小児腎不全学会雑誌, 38: 152-155, 2018.
 59. 石和 翔, 亀井 宏一, 小椋 雅夫, 西 健太郎, 奥津 美夏, 松村 壮史, 佐藤 舞, 西田 幹子, 宇田 和宏, 庄司 健介, 石倉 健司: 起因菌同定までに時間を要し診断に苦慮した非定型抗酸菌性腹膜炎の4歳男児例. 日本小児PD・HD研究会雑誌, 30: 33-35, 2018.
 60. 亀井 宏一, 好川 貴久, 永田 裕子, 西 健太郎, 石和 翔, 奥津 美夏, 松村 壮史, 佐藤 舞, 小椋 雅夫, 佐古 まゆみ, 鈴木 万里, 石倉 健司: 血圧の管理に難渋した高レニン性高血圧のDrash症候群の1歳女児例. 日本小児PD・HD研究会雑誌, 30: 55-57, 2018.
 61. 成相 諒子, 亀井 宏一, 余谷 暢之, 加納 優治, 小椋 雅夫, 久保田 雅也, 塩田 曜子, 田中 恭子, 前田 浩利, 木須 彩, 栃谷 治子, 鈴木 彩, 石黒 精, 石倉 健司: 生体腎移植後末期腎不全に腎代替療法を行えなかった結節性硬化症の1例. 日本小児腎不全学会雑誌, 38: 242-244, 2018.
 62. 才田 謙, 松村 壮史, 好川 貴久, 山本 かずな, 加納 優治, 永田 裕子, 佐藤 舞, 小椋 雅夫, 亀井 宏一, 石倉 健司. 新生児期より末期腎不全に陥った高位鎖肛例に対する長期的治療戦略 人工肛門と腹膜透析の同時管理. 日本小児PD・HD研究会雑誌 29:44-47, 2017
 63. 亀井 宏一, 小椋 雅夫, 松村 壮史, 加納 優治, 好川 貴久, 永田 裕子, 才田 謙, 佐藤 舞, 石倉 健司. 腹膜透析を導入した精神運動発達障害児の合併症と予後. 日本小児PD・HD研究会雑誌 29:22-24, 2017
 64. 松村 壮史, 石倉 健司. 【診療の「コツ」を伝える-先輩からのアドバイス】 検査のコツ 優れた尿検査は腎生検に匹敵しうる. 小児内科49 (9):1330-1333, 2017
 65. 石倉 健司. 小児慢性腎臓病(小児CKD). 小児科学会雑誌121(4):667-676, 2017
 66. 原田 涼子, 石倉 健司. 【ここがポイント-小児診療ガイドラインの使い方】 泌尿器・腎疾患 低形成・異形成腎を中心とした先天性腎尿路異常(CAKUT)の腎機能障害進行抑制のためのガイドライン. 小児科臨床70(6):863-868, 2017
 67. 石倉 健司. 小児CKDとCAKUTの管理. 発達腎研究会誌25(1):7-12, 2017
 68. 佐藤 舞, 石倉 健司. 【小児科ケースカンファレンス】 腎・泌尿器疾患、生殖器疾患 低形成・異形成腎. 小児科診療80(増):343-346, 2017
 69. 原田 涼子, 石倉 健司. 【小児腎臓病-新たな針路】 末期腎不全の原因としてのCAKUT小児内科. 49(4) :484-487, 2017
 70. 森川 和彦, 三浦 大, 森川 恵美[河口], 友常 雅子, 石倉 健司, 松島 崇浩, 寺川 敏郎, 本田 雅敬. 小児科後期研修医に対する臨床研究の教育プログラムの実施とアンケート. 日本小児科学会雑. 121(1):93-100, 2017
2. 学会発表
 1. Ishikura K: Epidemiology of CKD and ESKD according to Registry data Data from the Japanese Registry. IPNA2019, 2019. Venice. (2019.10)
 2. Sato M, Ishikura K, Ogura M, Nishi K, Kanamori T, Kamae C, Suzuki R, Murakoshi M, Sako M, Ito Sakamoto S, Kasahara M, Kamei K: Predictors of Kidney and liver morbidity in patients with autosomal recessive polycystic Kidney disease. IPNA2019, 2019. Venice. (2019.10)
 3. Hamasaki Y, Hamada R, Matsumoto S, Muramatsu M, Aya K, Ishikura K, Iijima K: A cross-sectional nationwide survey of congenital and infantile nephrotic syndrome in Japan. IPNA2019, 2019. Venice. (2019.10)
 4. Miura K, Shirai Y, Kunishima S, Ishiguro A, Hamada R, Ishikura K, Hattori M: A nation-wide survey of long-term prognosis of epstein syndrome. IPNA2019, 2019. Venice. (2019.10)
 5. Ishimori S, Horinouchi T, Fujimura J, Mi

- namikawa S, Yamamura T, Matsunoshita N, Kamiyoshi N, Ogura M, Kaito H, Nozu K, Kamei K, Ishikura K, Iijima K: Prospective examination of relationship between clinical features and relapse of Nephrotic syndrome after flu vaccines. IPNA2019, 2019. Venice. (2019.10)
6. Omori T, Kamei K, Nozu K, Ogata K, Takahashi M, Nagano C, Ishikura K, Iijima K, Misawa M: C1q nephropathy in siblings with nphs1 gene mutations. IPNA2019, 2019. Venice. (2019.10)
 7. Nishi K, Ogura M, Kamei K, Kanamori T, Ishiwa S, Okutsu M, Sato M, Ishikura K, Ito S: Strategy for discontinuing steroids in pediatric patients with lupus nephritis: a single center experience. IPNA2019, 2019. Venice. (2019.10)
 8. Terano C, Hamada R, Kaneko T, Honda M, Koichi N, Ishikura K: Epidemiology and treatment protocol of henoch-schönlein purpura nephritis: a Nationwide survey in Japan. IPNA2019, 2019. Venice. (2019.10)
 9. Kikunaga K, Hamada R, Inoguchi T, Terano C, Harada R, Hamasaki Y, Ishikura K, Hataya H, Matsuyama T, Honda M: Intelligence quotient in ESKD children: comparison between pre-emptive Kidney transplantation and transplantation after dialysis. IPNA2019, 2019. Venice. (2019.10)
 10. Okutsu M, Kamei K, Sato M, Ishiwa S, Kanamori T, Nishi K, Ogura M, Sako M, Ito S, Yoshioka T, Ogata K, Ishikura K: Clinical significance of collapsing variant in childhood focal segmental Glomerulosclerosis. IPNA2019, 2019. Venice. (2019.10)
 11. Tomari , Hamada R, Omori N, Mikami N, Anno A, Shimabukuro W, Shirane S, Inoguchi T, Okuda Y, Terano C, Harada R, Hamasaki , Ishikura K, Hataya H, Honda M: Subepithelial electron-dense deposits do not predict treatment response in C3 Glomerulopathy. IPNA2019, 2019. Venice. (2019.10)
 12. Kamei K, Miyairi I, Shoji K, Ishikura K, Sako M, Nakamura H: National survey of live attenuated vaccines for patients receiving immunosuppressive agents or biological agents. IPNA2019, 2019. Venice. (2019.10)
 13. Inoguchi T, Hamada R, Anno A, Shimabukuro W, Shirane S, Tomari K, Akamine K, Terano C, Harada R, Hamasaki Y, Hataya H, Ishikura K, Honda M: Presenting clinical features of pediatric renovascular hypertension at diagnosis: a single-center experience from Japan. IPNA2019, 2019. Venice. (2019.10)
 14. Harada R, Kikunaga K, Kamei K, Hamada R, Nagata H, Ando T, Ishikura K. Adrenal suppression after prednisolone treatment in children with idiopathic nephrotic syndrome: a multicenter prospective study. SN Kidney Week 2018, San Diego, 27 Oct 2018
 15. 石倉健司. 学校検尿：みつかる疾患，見逃す疾患. 町田市医師会，町田，2020年2月
 16. 石倉健司. 小児腎領域の希少・難治性疾患とCKDコホート. 北海道小児腎臓病セミナー2019 in Sapporo. 札幌，2019年11月
 17. 石倉健司，金子徹治. ワンポイント統計学. 北海道小児腎臓病セミナー2019 in Sapporo. 札幌，2019年11月
 18. 藪内智朗，石和翔，三浦健一郎，張田豊，石塚喜世伸，神田祥一郎，佐藤敦志，磯島豪，濱田陸，石倉健司，五十嵐隆，服部元史. Lowe 症候群の長期的腎予後に関する検討. 第41回日本小児腎不全学会，高知，2019年11月
 19. 西健太郎，小椋雅夫，金森透，石和翔，奥津美夏，佐藤舞，佐古まゆみ，諫山哲哉，亀井宏一，伊藤秀一，伊裕司，石倉健司. 新生児期に腎機能障害を呈する先天性腎尿路異常においてクレアチニン値は腎機能予後予測に有用か. 第33回日本小児PD・HD研究会，名古屋，2019年11月
 20. 佐藤舞，亀井宏一，石倉健司，笠原群生. 常染色体劣性多発性嚢胞腎の長期予後 肝移植と腎移植の戦略. 第33回日本小児PD・HD研究会，名古屋，2019年11月
 21. 奥田雄介，石倉健司，エラニ・ストレージャ，カム・カラントー. 青年期腎移植と初回及びその後複数回の移植腎喪失リスク、死亡の関連. 第55回日本移植学会. 広島2019年10月
 22. 石倉健司. 小児のCKDと遺伝性腎疾患—CAKUTを中心に—. 第2回遺伝腎疾患を考える会，相模原，2019年10月
 23. 濱田陸，幡谷浩史，井口智洋，寺野千香子，原田涼子，青木裕次郎，佐藤裕之，濱崎祐子，石倉健司，幡谷浩史. Trends in the incidence and pathology of pediatric PD peritonitis: a single center experience spanning 30 years. Peritoneal Dialysis, 名古屋，2019年9月
 24. 奥田雄介，昆伸也，石倉健司. 小児透析患者における透析導入時の高血圧リスク因子. 第26回小児高血圧研究会，東京，2019年9月
 25. 石倉健司. 小児の慢性腎臓病～疫学と腎機能の評価について. 第358日本小児科学会神奈川県地方会，横浜，2019年9月
 26. 石倉健司. 留意すべき小児の慢性腎疾患と早期発見のための正確な腎機能評価. 神奈川県学校腎疾患管理研究会講演会，横浜，2019年9月
 27. 亀井宏一，金森透，奥津美夏，石和翔，西健太郎，佐藤舞，小椋雅夫，石倉健司. 当院のPD導入患者70名の原疾患・導入時年齢・予後. 第64回日本透析医学会学術集会. 横浜，2019年6月
 28. 昆伸也，中村信也，西川暁子，岩波直美，大熊浩江，守屋俊介，河西紀昭，石倉健司. 当院における小児全身性エリテマトーデスの臨床的検討. 第54回日本小児腎臓病学会学術集会，大阪，2019年6月
 29. 出来沙織，濱田陸，赤峰敬治，神垣佑，白根正一郎，泊弘毅，南裕佳，井口智洋，菊永佳織，三上直朗，寺野千香子，原田涼子，濱崎祐子，

- 石倉健司, 幡谷浩史, 本田雅敬. 当院におけるネフローゼ状態を呈した紫斑病性腎炎の検討. 第54回日本小児腎臓病学会学術集会, 大阪, 2019年6月
30. 南裕佳, 濱田陸, 廣瀬文, 白根正一郎, 泊弘毅, 神垣佑, 赤峰敬治, 出来沙織, 井口智洋, 菊永佳織, 寺野千香子, 原田涼子, 石倉健司, 幡谷浩史, 上牧勇, 本田雅敬. 両側肺動脈塞栓症から心肺停止となった難治性頻回再発型ネフローゼ症候群の1例. 第54回日本小児腎臓病学会学術集会, 大阪, 2019年6月
 31. 菊永佳織, 濱田陸, 廣瀬文, 白根正一郎, 泊弘毅, 神垣佑, 赤嶺敬治, 南裕佳, 出来沙織井口智洋, 三上直朗, 寺野千香子, 原田涼子, 濱崎祐子, 石倉健司, 本田雅敬. 小児腎移植患者の知能指数 腎移植前透析の有無による比較. 第54回日本小児腎臓病学会学術集会, 大阪, 2019年6月
 32. 奥津美夏, 亀井宏一, 石和翔, 佐藤舞, 金森透, 西健太郎, 小椋雅夫, 佐古まゆみ, 伊藤秀一, 義岡孝子, 緒方謙太郎, 石倉健司. 当院における小児全身性エリテマトーデスの臨床的検討. 第54回日本小児腎臓病学会学術集会, 大阪, 2019年6月
 33. 金森透, 亀井宏一, 西健太郎, 奥津美夏, 石和翔, 佐藤舞, 小椋雅夫, 佐古まゆみ, 河合 利尚, 伊藤秀一, 石倉健司. 小児期発症難治性ネフローゼ症候群におけるリツキシマブ投与後のT細胞サブセットの解析129例の検討. 日本小児腎臓病学会雑誌第54回日本小児腎臓病学会学術集会, 大阪, 2019年6月
 34. 亀井宏一, 佐藤舞, 金森透, 奥津美夏, 石和翔, 西健太郎, 小椋 雅夫, 伊藤 秀一, 石倉 健司. リツキシマブ単回投与後B細胞枯渇中に再発した難治性ネフローゼ症候群の臨床的特徴. 第54回日本小児腎臓病学会学術集会, 大阪, 2019年6月
 35. 石和翔, 佐藤舞, 西健太郎, 金森透, 奥津美夏, 小椋雅夫, 佐古まゆみ, 亀井宏一, 伊藤秀一, 石倉健司ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群における重症急性腎障害 単施設62例の解析. 第54回日本小児腎臓病学会学術集会, 大阪, 2019年6月
 36. 石森真吾, 堀之内 智子, 藤村順也, 南川将吾, 山村智彦, 松野下夏樹, 神吉直宙, 小椋雅夫, 貝藤裕史, 野津寛大, 亀井宏一, 石倉健司, 飯島一誠. 小児特発性ネフローゼ症候群におけるインフルエンザウイルスワクチン接種とネフローゼ病勢との関連 多施設共同研究. 第54回日本小児腎臓病学会学術集会, 大阪, 2019年6月
 37. 石倉健司. 小児腎疾患のガイドラインの現状と今後 小児特発性ネフローゼ症候群診療ガイドライン2019. 第54回日本小児腎臓病学会学術集会, 大阪, 2019年6月
 38. 三浦健一郎, 白井陽子, 國島伸治, 濱田陸, 石倉健司, 服部元史. エプスタイン症候群の長期予後に関する追跡調査. 第62回日本腎臓学会学術集会, 名古屋, 2019年6月
 39. 石森真吾, 石倉健司, 佐藤舞, 菊永香織, 寺野千香子, 濱崎祐子, 安藤高志, 伊藤秀一, 本田雅敬. 小児特発性ネフローゼ症候群全国疫学調査(JP-SHINE study) インフルエンザウイルスワクチンによる再発減少効果. 第62回日本腎臓学会学術集会, 名古屋, 2019年6月
 40. 濱田陸, 幡谷浩史, 泊弘毅, 寺野千香子, 原田涼子, 濱崎祐子, 石倉健司, 本田雅敬. 小児難治性ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ治療におけるB細胞枯渇と寛解維持の関係. 第62回日本腎臓学会学術集会, 名古屋, 2019年6月
 41. 亀井宏一, 佐藤舞, 金森透, 奥津美夏, 石和翔, 西健太郎, 小椋雅夫, 伊秀一, 石倉 健司. リツキシマブ単回投与後B細胞枯渇中に再発した難治性ネフローゼ症候群患者の臨床的特徴. 第62回日本腎臓学会学術集会, 名古屋, 2019年6月
 42. 石倉健司. 難病診療連携とCKDコホート. 九州小児腎臓病セミナー2019 in Fukuoka, 福岡, 2019年5月
 43. 石倉健司, 金子徹治. 論文を読むときも書くときも役に立つ生物統計学. 九州小児腎臓病セミナー2019 in Fukuoka, 福岡, 2019年5月
 44. 加納優治, 小椋雅夫, 西健太郎, 金森透, 奥津美夏, 石和翔, 佐藤舞, 亀井宏一, 吉原重美, 石倉健司. IgA血管炎のステロイド依存性の腹部症状にアザチオプリンが有効であった2例. 第122回日本小児科学会学術集会, 石川, 2019年4月
 45. 寺野千香子, 幡谷浩史, 久保田亘, 井口智洋, 菊永佳織, 原田涼子, 濱田陸, 濱祐子, 石倉 健司, 本田雅敬. 小児期発症腎疾患患者の疾患理解, 自立度は成人期発症患者と同等である. 第122回日本小児科学会学術集会, 石川, 2019年4月
 46. 西健太郎, 小椋雅夫, 金森透, 石和翔, 奥津美夏, 佐藤舞, 佐古まゆみ, 諫山哲哉, 亀井宏一, 伊藤秀一, 伊藤裕司, 石倉健司. 新生児期に腎機能障害を呈する先天性腎尿路異常におけるクレアチニン値と腎予後の関係. 第122回日本小児科学会学術集会, 石川, 2019年4月
 47. 原田涼子, 菊永佳織, 亀井宏一, 濱田陸, 永田裕子, 寺野千香子, 佐藤舞, 小椋雅夫, 後藤正博, 長谷川行洋, 安藤高志, 幡谷 浩史, 石健司, 本田雅敬. 小児特発性ネフローゼ症候群患者のステロイド治療後副腎機能評価. 第122回日本小児科学会学術集会, 石川, 2019年4月
 48. 亀井宏一, 宮入烈, 庄司健介, 佐古まゆみ, 中村秀文, 石倉健司. 免疫抑制薬や生物学的製剤使用下での生ワクチン接種全国実態調査. 第122回日本小児科学会学術集会, 石川, 2019年4月
 49. 関戸雄貴, 中舘尚也, 伊藤秀一, 小椋雅夫, 石倉健司, 宮寄治, 野坂俊介, 窪田満, 石黒精. 多発性骨病変を呈した慢性再発性多発性骨髄炎の2例. 第121回日本小児科学会学術集会, 2018. 福岡.
 50. 釜江智佳子, 亀井宏一, 松村壮史, 渋川尚幸, 三谷 爽, 辻田 由喜, 小國 裕和, 野村 智章, 藤田基資, 中川紀子, 石倉健司, 黒木康富. 学校検尿を契機に発見され腎機能障害を呈した肥満関連腎症の14歳男児例. 第121回日本小児科学会学術集会, 2018. 福岡.
 51. 亀井宏一, 奥津美夏, 石和翔, 西健太郎, 松村壮史, 佐藤舞, 小椋雅夫, 中西啓太, 野津寛大, 飯島一誠, 石倉健司. NUP107の複合ヘテロ変

- 異を認めた無症候性蛋白尿の3歳女児. 第121回日本小児科学会学術集会, 2018. 福岡.
52. 安河内 悠, 小椋 雅夫, 石倉 健司, 伊藤 秀一, 石黒精: 上肢の関節拘縮で発見され, 早期治療が奏功した少関節型若年性特発性関節炎の3例. 第121回日本小児科学会学術集会, 2018. 福岡.
 53. 松戸孝博, 西村奈穂, 渡邊太郎, 井手健太郎, 中川聡, 宮入烈, 石倉健司, 久保田雅也: 腸管出血性大腸菌感染症による溶血性尿毒症症候群に伴う急性脳症の予後の検討. 第121回日本小児科学会学術集会, 2018. 福岡.
 54. 亀井宏一, 宮入烈, 庄司健介, 佐古まゆみ, 中村秀文, 石倉健司: 免疫抑制薬内服中の患者への弱毒生ワクチン接種の現状と今後の戦略・課題. 第121回日本小児科学会学術集会, 2018. 福岡.
 55. 濱田陸, 出来沙織, 南裕佳, 井口智洋, 大森教雄, 齋藤綾子, 徳永孝史, 菊永佳織, 三上直朗, 寺野千香子, 原田 子, 濱崎祐子, 石倉健司, 幡谷浩史, 本田雅敬: 小児期発症STEC-HUSとaHUSの診断時臨床像および予後の比較. 第21回日本小児科学会学術集会, 2018. 福岡.
 56. 佐藤舞, 石倉健司, 寺野千香子, 菊永佳織, 小牧文代, 石森真吾, 濱崎祐子, 安藤高志, 伊藤秀一, 本田雅敬: 小児特発性ネフローゼ症候群全国疫学調査(JP-SHINE study). 第121回日本小児科学会学術集会, 2018. 福岡.
 57. 西健太朗, 小椋雅夫, 石和翔, 松村壮史, 奥津美夏, 佐藤舞, 佐古まゆみ, 亀井宏一, 伊藤秀一, 石倉健司: 急激な腎機能低下により新生児期に透析導入に至ったDenys-Drash症候群の5例. 第121回日本小児科学会学術集会, 2018. 福岡.
 58. 三浦真理子, 加納優治, 伊東藍, 前川貴伸, 小椋雅夫, 亀井宏一, 野津大, 窪田満, 石黒精, 石倉健司: 3型Bartter症候群(3型BS)の2例とGitelman症候群(GS)の2例:臨床診断の限界について. 第121回日本小児科学会学術集会, 2018. 福岡.
 59. 湖城由佳, 詫間梨恵, 鈴木萌夏, 赤羽三貴, 小椋雅夫, 伊藤秀一, 石倉健司, 石川洋一: 小児リウマチ性疾患患児におけるメトトレキサートの副作用調査および葉酸製剤の予防効果の検討. 日本薬学会第138年会, 2018. 石川.
 60. 堀之内 智子, 野津寛大, 石健司, 飯島 一誠: ゲノムワイド関連解析による小児特発性ネフローゼ症候群のriskhaplotype同定. 第61回日本腎臓学会学術総会, 2018. 新潟.
 61. 亀井宏一, 奥津 美夏, 石和翔, 西健太朗, 松村壮史, 佐藤舞, 小椋雅夫, 佐古まゆみ, 伊藤 秀一, 石倉 健司: リツキシマブ後免疫抑制薬を継続した難治性ネフローゼ症候群での免疫抑制薬中止後再発に寄与する因子の検討. 第61回日本腎臓学会学術総会, 2018. 新潟.
 62. 石倉 健司: 小児特発性ネフローゼ症候群 本邦の臨床研究と診療ガイドラインの改訂. 第53回日本小児腎臓病学会学術集会, 2018. 福島.
 63. 石倉健司: 高血圧と腎障害 インターベンション 小児腎疾患と高血圧緊急症 PRESを中心に. 第53回日本小児腎臓病学会学術集会, 2018. 福島.
 64. 井口智洋, 濱口陸, 南裕佳, 出来沙織, 大森教雄, 齋藤綾子, 徳永孝史, 菊永佳織, 三上直朗, 寺野千香子, 原田 涼子, 濱崎 祐子, 幡谷 浩史, 石倉 健司, 本田 雅敬: 当院で管理された先天性ネフローゼ症候群, 乳児ネフローゼ症候群49例の臨床経過の検討. 第53回日本小児腎臓病学会学術集会, 2018. 福島.
 65. 濱田陸, 石倉健司, 大森教雄, 三上直朗, 寺野千香子, 原田 子, 松井善一, 佐藤裕之, 後藤美和, 濱崎祐子, 幡谷浩史, 緒方謙太郎, 中西 浩一, 長谷川行洋, 宍戸清一郎, 本田雅敬: 当院で経験したWT1関連腎症34例の遺伝子異常と臨床像. 第53回日本小児腎臓病学会学術集会, 2018. 福島.
 66. 齋藤綾子, 原田涼子, 南裕佳, 出来沙織, 井智洋, 大森教雄, 徳永孝史, 菊永佳織, 寺野千香子, 濱田陸, 濱崎祐子, 幡谷浩史, 石倉健司, 本田雅敬: 小児初発ネフローゼ症候群における高血圧の臨床像. 第53回日本小児腎臓病学会学術集会, 2018. 福島.
 67. 寺野千香子, 幡谷浩史, 久保田亘, 菊永佳織, 三上直朗, 原田涼子, 濱 陸, 濱崎祐子, 石倉健司, 杉井章二, 西尾康英, 本田雅敬: 小児期発症腎疾患患者の疾患理解, 自立度は成人期発症患者と同等である. 第53回日本小児腎臓病学会学術集会, 2018. 福島.
 68. 亀井宏一, 奥津美夏, 石和翔, 西健太朗, 松村壮史, 佐藤舞, 小椋雅夫, 佐古まゆみ, 伊藤秀一, 石倉健司: リツキシマブ後免疫抑制薬を継続した難治性ネフローゼ症候群での免疫抑制薬の至適中止時期および中止後再発に寄与する因子の検討. 第53回日本小児腎臓病学会学術集会, 2018. 福島.
 69. 徳永孝史, 濱田陸, 出来沙織, 南裕佳, 大森教雄, 齋藤綾子, 井口智洋, 菊永佳織, 寺野千香子, 三上直朗, 原田涼子, 濱崎祐子, 幡谷浩史, 石倉健司, 本田雅敬: automated peritoneal dialysis(APD)における除水量当たりのナトリウム除去量についての検討. 第53回日本小児腎臓病学会学術集会, 2018. 福島.
 70. 菊永佳織, 濱田陸, 南裕佳, 出来沙織, 井口智洋, 大森教雄, 齋藤綾子, 徳永孝史, 三上直朗, 寺野千香子, 原田涼子, 濱崎祐子, 幡谷浩史, 石倉 健司, 本田雅敬: 末期腎不全に至った先天性腎尿路異常(CAKUT)患者の経過 SyndromicとNon-syndromicの比較. 第53回日本小児腎臓病学会学術集会, 2018. 福島.
 71. 奥津美夏, 亀井宏一, 松村壮史, 佐藤舞, 西健太朗, 石和翔, 小椋雅夫, 佐古まゆみ, 伊藤秀一, 石倉健司: ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の既往がある難治性ネフローゼ症候群に対するB細胞回復後のリツキシマブ予防的追加投与. 第53回日本小児腎臓病学会学術集会, 2018. 福島.
 72. 亀井宏一, 野津寛大, 中西啓太, 長野智那, 奥津美夏, 石和翔, 西健太朗, 松村壮史, 佐藤舞, 小椋雅夫, 佐古まゆみ, 伊藤秀一, 飯島一誠, 石倉健司: 8歳でステロイド抵抗性ネフローゼ症候群を発症後にNPHS1複合ヘテロ接合体変異が判明した女児例. 第53回日本小児腎臓病学会学術集会, 2018. 福島.
 73. 堀之内智子, Jia Xiaoyuan, 人見祐基, 石倉健司, 亀井宏一, 濱田陸, 郭義胤, 藤丸季可, 岡本孝之, 大和田葉子, 田中亮二郎, 後藤芳充,

- 貝藤裕史, 野津寛大, 徳永勝士, 飯島 一誠: ゲノムワイド関連解析による小児特発性ネフローゼ症候群のrisk haplotype同定. 第53回日本小児腎臓病学会学術集会, 2018. 福島.
74. 大森 教雄, 濱田 陸, 出来 沙織, 南 裕佳, 井口 智洋, 齊藤 綾子, 徳永 孝史, 菊永 佳織, 奥田 雄介, 三上 直朗, 寺野 千香子, 原田 涼子, 濱崎 祐子, 幡谷 浩史, 石倉 健司, 本田 雅敬: IgG沈着の有無によるC3腎症の予後の検討. 第53回日本小児腎臓病学会学術集会, 2018. 福島.
 75. 釜江 智佳子, 亀井 宏一, 松村 壮史, 渋川 尚幸, 三谷 爽, 辻田 由喜, 山本 かずな, 小國 裕和, 野村 智章, 藤田 基資, 中川 紀子, 石倉 健司, 黒木 康富: 学校検尿を契機に発見された腎機能障害を呈した肥満関連腎症の14歳男児例. 第53回日本小児腎臓病学会学術集会, 2018. 福島.
 76. 加納 優治, 西 健太郎, 石和 翔, 奥津 美夏, 松村 壮史, 佐藤 舞, 小椋 雅夫, 亀井 宏一, 福原 康之, 野津 寛大, 池田 真理子, 倉橋 浩樹, 石倉 健司: 遺伝学的検査により確定診断され, 次子の出生前診断が検討された遺伝性腎疾患の2家系. 第53回日本小児腎臓病学会学術集会, 2018. 福島.
 77. 大谷 勇紀, 井口 智洋, 徳永 孝史, 南 裕佳, 出来 沙織, 大森 教雄, 齊藤 綾子, 菊永 佳織, 寺野 千香子, 原田 涼子, 濱田 陸, 濱崎 祐子, 幡谷 浩史, 石倉 健司, 本田 雅敬: ネフローゼ状態に至った小児重症紫斑病性腎炎(HSPN)に対する腎生検適応 血清アルブミン値からみた腎生検介入時期の検討. 第53回日本小児腎臓病学会学術集会, 2018. 福島.
 78. 西 健太郎, 小椋 雅夫, 石和 翔, 加納 優治, 才田 謙, 奥津 美夏, 松村 壮史, 佐藤 舞, 佐古 まゆみ, 亀井 宏一, 長田 道夫, 義岡 孝子, 緒方 謙太郎, 石倉 健司: 血栓性微小血管障害(TMA)を合併したステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の1歳男児例. 第53回日本小児腎臓病学会学術集会, 2018. 福島.
 79. 佐藤 舞, 石倉 健司, 武田 昌寛, 佐々木 健吾, 内田 孟, 平田 義弘, 福田 晃也, 阪本 靖介, 笠原 群生: 腎障害の有無による小児肝移植例の長期腎予後:471例の解析. 第54回日本移植学会, 2018. 東京.
 80. 佐藤 舞, 小椋 雅夫, 亀井 宏一, 石倉 健司, 福田 晃也, 阪本 靖介, 笠原 群生: 肝移植後同一ドナーによる腎移植における抗ドナー抗体の意義. 第54回日本移植学会, 2018. 東京.
 81. 西 健太郎, 小椋 雅夫, 石和 翔, 奥津 美夏, 金森 透, 佐藤 舞, 佐古 まゆみ, 亀井 宏一, 伊藤 秀一, 石倉 健司: ステロイドを中止しえた小児期発症全身性エリテマトーデスの10例. 第28回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2018. 東京.
 82. 小椋 雅夫, 伊藤 秀一, 金森 透, 西 健太郎, 奥津 美夏, 石和 翔, 佐藤 舞, 亀井 宏一, 石倉 健司: 抗MDA5抗体陽性若年性皮膚筋炎の完治後に混合性結合組織病を発症した1女児例. 第28回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2018. 東京.
 83. 湖城 由佳, 詫間 梨恵, 小椋 雅夫, 石倉 健司, 伊藤 秀一, 山谷 明正: 小児リウマチ性疾患患者におけるメトトレキサートの副作用調査および葉酸製剤の予防効果の検討. 第28回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2018. 東京.
 84. 金森 啓太, 西 健太郎, 石和 翔, 小椋 雅夫, 石倉 健司, 伊藤 秀一: 急性心不全を契機に診断された高安動脈炎の12歳女児例. 第28回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2018. 東京.
 85. 西 健太郎, 小椋 雅夫, 石和 翔, 奥津 美夏, 金森 透, 佐藤 舞, 佐古 まゆみ, 亀井 宏一, 伊藤 秀一, 石倉 健司: ステロイドを中止しえた小児期発症全身性エリテマトーデスの10例. 第28回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2018. 東京.
 86. 石和 翔, 小椋 雅夫, 西 健太郎, 奥津 美夏, 松村 壮史, 佐藤 舞, 亀井 宏一, 西村 謙一, 伊藤 秀一, 石倉 健司. PET-CTが確定診断に有用であった, 脳内出血を契機に発見された高安動脈炎の一例. 第27回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 京都, 2017年10月
 87. 森貞 直哉, 庄野 朱美, 野津 寛大, 忍頂寺 毅史, 叶 明娟, 井藤 奈央子, 神田 祥一郎, 亀井 宏一, 石倉 健司, 伊藤 秀一, 山本 勝輔, 塚口 裕康, 里村 憲一, 田中 亮二郎, 飯島 一誠. NGSターゲット遺伝子シーケンスパネルによるCAKUTおよびNPHの包括的原因遺伝子解析. 第52回日本小児腎臓病学会学術集会. 東京. 2017年6月
 88. 才田 謙, 石森 真吾, 松村 壮史, 好川 貴久, 山本 かずな, 加納 優治, 永田 裕子, 佐藤 舞, 小椋 雅夫, 佐古 まゆみ, 亀井 宏一, 谷口 敦夫, 石倉 健司. 第52回日本小児腎臓病学会学術集会, 東京, 2017年6月
永田 裕子, 寺野 千香子, 坂井 智行, 横井 匡, 加納 優治, 好川 貴久, 松村 壮史, 才田 謙, 佐藤 舞, 小椋 雅夫, 佐古 まゆみ, 亀井 宏一, 濱田 陸, 東 範行, 伊藤 秀一, 石倉 健司. ステロイドによる重症緑内障を来し, 手術を要した特発性ネフローゼ症候群3症例. 第52回日本小児腎臓病学会学術集会, 東京, 2017年6月
 89. 亀井 宏一, 濱田 陸, 田中 征治, 町田 裕之, 田中 絵里子, 藤永 周一郎, 高橋 匡輝, 北山 浩嗣, 石森 真吾, 庄司 健介, 河合 利尚, 佐古 まゆみ, 石倉 健司. リツキシマブ療法を施行した難治性ネフローゼ症候群患者におけるインフルエンザワクチンの有効性と安全性. 第52回日本小児腎臓病学会学術集会, 東京, 2017年6月
 90. 亀井 宏一, 濱田 陸, 田中 征治, 町田 裕之, 田中 絵里子, 藤永 周一郎, 高橋 匡輝, 北山 浩嗣, 石森 真吾, 庄司 健介, 河合 利尚, 佐古 まゆみ, 石倉 健司. 日本人小児のためのGFR推算式の検証. 第52回日本小児腎臓病学会学術集会, 東京, 2017年6月
 91. 原田 涼子, 濱田 陸, 井口 智洋, 大森 教雄, 齊藤 綾子, 徳永 孝史, 金子 昌弘, 三上 直朗, 久保田 亘, 寺野 千香子, 濱崎 祐子, 石倉 健司, 幡谷 浩史, 本田 雅敬. 腹膜透析患児におけるカルニチン欠乏の実態. 第52回日本小児腎臓病学会学術集会, 東京, 2017年6月
 92. 山内 葉那子, 三上 直朗, 井口 智洋, 大森 教雄, 齊藤 綾子, 徳永 孝史, 金子 昌弘, 久保田

- 亘, 寺野 千香子, 原田 涼子, 濱田 陸, 濱崎 祐子, 石倉 健司, 幡谷 浩史, 本田 雅敬. 初発ネフローゼ症候群における初期治療28日時点不完全寛解症例の予後. 第52回日本小児腎臓病学会学術集会, 東京, 2017年6月
93. 加納 優治, 亀井 宏一, 松村 壮史, 好川 貴久, 山本 かずな, 永田 裕子, 才田 謙, 佐藤 舞, 小椋 雅夫, 佐古 まゆみ, 伊藤 秀一, 石倉 健司. 小児ネフローゼ症候群患者におけるウイルス抗体価 の推移. 第52回日本小児腎臓病学会学術集会, 東京, 2017年6月
94. 大森 教雄, 三上 直朗, 井口 智洋, 齊藤 綾子, 徳永 孝史, 金子 昌弘, 久保田 亘, 寺野 千香子, 原田 涼子, 濱田 陸, 濱崎 祐子, 石倉 健司, 幡谷 浩史, 本田 雅敬. 急性尿細管壊死による急性腎不全を来したサルモネラ腸炎の1例. 第52回日本小児腎臓病学会学術集会, 東京, 2017年6月
95. 金子 昌弘, 濱田 陸, 徳永 孝史, 大森 教雄, 齊藤 綾子, 井口 智洋, 三上 直朗, 久保田 亘, 寺野 千香子, 篠塚 俊介, 原田 涼子, 濱崎 祐子, 石倉 健司, 幡谷 浩史, 本田 雅敬. 当施設におけるANCA関連血管炎の診断時腎病理組織と腎予後の検討. 第52回日本小児腎臓病学会学術集会, 東京, 2017年6月
96. 久保田 亘, 濱田 陸, 井口 智洋, 大森 教雄, 齊藤 綾子, 徳永 孝史, 金子 昌弘, 三上 直朗, 寺野 千香子, 原田 涼子, 濱崎 祐子, 石倉 健司, 幡谷 浩史, 本田 雅敬. 小児特発性ネフローゼ症候群(NS)におけるoverfilling/underfillingの病態と臨床的特徴の検討 第52回日本小児腎臓病学会学術集会, 東京, 2017年6月
97. 石倉 健司. Safety first! 小児難治性ネフローゼ症候群におけるリツキシマブ治療. 第52回日本小児腎臓病学会学術集会, 東京, 2017年6月
98. 亀井 宏一, 小椋 雅夫, 松村 壮史, 加納 優治, 好川 貴久, 永田 裕子, 才田 謙, 佐藤 舞, 山本 かずな, 佐古 まゆみ, 伊藤 秀一, 石倉 健司. 15kg未満の乳幼児の腹膜透析患者および家族の生活の質についてのアンケート調査. 第62回日本透析医学会学術集会, 横浜, 2017年6月
99. 寺野 千香子, 濱田 陸, 三上 直朗, 久保田 亘, 原田 涼子, 濱崎 祐子, 石倉 健司, 幡谷 浩史, 本田 雅敬. 小児腹膜透析患者の低セレン血症の頻度とリスク因子. 第62回日本透析医学会学術集会, 横浜, 2017年6月
100. 松村 壮史, 亀井 宏一, 好川 貴久, 加納 優治, 永田 裕子, 才田 謙, 佐藤 舞, 小椋 雅夫, 濱田 陸, 橋本 淳也, 濱崎 祐子, 宍戸 清一郎, 長谷川 雄一, 鈴木 万里, 上岡 克彦, 伊藤 秀一, 石倉 健司. 腎代替療法を要した後部尿道弁患者6人の予後. 第60回日本腎臓学会学術集会, 仙台, 2017年5月
101. 濱田 陸, 幡谷 浩史, 三上 直朗, 久保田 亘, 寺野 千香子, 原田 涼子, 濱崎 祐子, 石倉 健司, 本田 雅敬. 小児aHUSとSTEC-HUSの診断時臨床像および予後の比較. 第60回日本腎臓学会学術集会, 仙台, 2017年5月
102. 亀井 宏一, 石倉 健司, 佐古 まゆみ, 綾 邦彦, 田中 亮二郎, 野津 寛大, 貝藤 裕史, 中西 浩一, 大友 義之, 三浦 健一郎, 高橋 昌里, 森本 哲司, 久保田 亘, 伊藤 秀一, 飯島 一誠, RCRNS study group. 医師主導治験でリツキシマブの投与を行った小児期発症難治性ネフローゼ症候群患者の長期予後. 第60回日本腎臓学会学術集会, 仙台, 2017年5月
103. 三上 直朗, 濱田 陸, 久保田 亘, 寺野 千香子, 原田 涼子, 濱崎 祐子, 石倉 健司, 幡谷 浩史, 本田 雅敬. 小児期発症ネフローゼ症候群における抗凝固療法開始指標. 第60回日本腎臓学会学術集会, 仙台, 2017年5月
104. 橋本 淳也, 三山 佐保子, 熊田 聡子, 伊藤 麻美, 原田 涼子, 濱田 陸, 濱崎 祐子, 石倉 健司, 幡谷 浩史, 本田 雅敬. 小児ギラン・バレー症候群における高血圧の実態調査. 第120回日本小児科学会学術集会, 東京, 2017年4月
105. 石倉 健司. 先天性腎尿路奇形(CAKUT)の早期発見と管理 小児CKDとCAKUTの管理 最新のガイドラインのRationale. 第120回日本小児科学会学術集会, 東京, 2017年4月
106. 才田 謙, 小椋 雅夫, 亀井 宏一, 竹添 豊志子, 藤野 明浩, 小野 博, 宮 寄治, 野坂 俊介, 石黒 精, 石倉 健司. Budd-Chiari症候群および急性心筋梗塞を呈した原発性抗リン脂質抗体症候群の小児例腎・泌尿器疾患、生殖器疾患. 第120回日本小児科学会学術集会, 東京, 2017年4月
107. 遠藤 翔太, 秋山 聡香, 大場 邦弘, 小鍛治 雅之, 松村 壮史, 小椋 雅夫, 石倉 健司, 西村 謙一, 伊藤 秀一, 黒田 誠. パラインフルエンザ3型感染症を契機に診断された若年性関節リウマチの1例. 第120回日本小児科学会学術集会, 東京, 2017年4月
108. 加納 優治, 才田 謙, 小椋 雅夫, 亀井 宏一, 長谷川 雄一, 鈴木 万里, 上岡 克彦, 堀川 玲子, 伊藤 秀一, 石倉 健司. Denys-Drash症候群8例の性分化疾患の検討. 第120回日本小児科学会学術集会, 東京, 2017年4月
109. 好川 貴久, 佐藤 舞, 加納 優治, 永田 裕子, 才田 謙, 小椋 雅夫, 亀井 宏一, 伊藤 玲子, 飛弾 麻里子, 石倉 健司. 総胆管結石を合併した先天性ネフローゼ症候群の女児例. 第120回日本小児科学会学術集会, 東京, 2017年4月
110. 川上 沙織, 甘利 昭一郎, 和田 友香, 丸山 秀彦, 藤永 英志, 高橋 重裕, 加納 優治, 塚本 桂子, 石倉 健司, 伊藤 裕司. 常染色体劣性多発性嚢胞腎患者におけるアンジオテンシンII受容体拮抗薬の投与経験. 第120回日本小児科学会学術集会, 東京, 2017年4月
111. 亀井 宏一, 小椋 雅夫, 松村 壮史, 加納 優治, 好川 貴久, 永田 裕子, 才田 謙, 佐藤 舞, 石倉 健司. 移植腎におけるプロトコール生検の意義. 第120回日本小児科学会学術集会, 東京, 2017年4月
- G. 知的所有権の取得状況
1. 特許取得
なし
 2. 実用新案登録
なし
 3. その他
なし